

第39回関東地区大学教育研究会

2022/9/8



MULTIPLE MINI INTERVIEW 面接を用いた 入学者選抜のデザイン

— 横浜市立大学 医学部医学科
学校推薦型選抜の試み —

出光 直樹 横浜市立大学

アドミッションズセンター／高等教育推進センター

プロフィール

- 1990年札幌学院大学人文学部卒業。
- 桜美林大学大学院で高等教育論を専攻し1997年修士課程修了。
- 1999年に博士後期課程を中退し同大学の職員に。
- 大学院在学中は研究員としてFD/SDやIRのサポート、大学院中退後は職員として入試広報等の業務に従事。

- 2005年から横浜市立大学に移り現職。事務局組織における専門職として、電話対応や願書処理等の実務とともに、データ分析や新しい入試方法のデザインを担う。
- 医学科入試については2013年より一貫して担当。

- 2014年～2018年にかけて桜美林大学大学院にて授業科目『大学アドミッション』を担当。
- 主な学会・研究会活動： 関東地区大学教育研究会（幹事）、
大学教育学会（理事）、オセアニア教育学会（理事）

これから

5枚の絵をご覧ください

さて

これらの絵は

何でしょう？

2017年度 医学部医学科特別推薦入試 第2次面接審査より

地球外にも生命体が存在するかもしれません。もし存在するとしたら、どの様なものでしょうか？

その生命体の形を描き、なぜその様な形になると考えたのか説明してください。

絵は、テーブルに用意してある紙とサインペン(黒)を使って、2分程度で描いてください。その後、絵について2分程度で説明をしてください。

<医学科 特別公募制学校推薦型選抜の概要>

11月 書類審査

- 英語資格(3.0～5.0で得点化)＋高校成績(4.3～5.0)の合計点で選考

12月 面接 10分×5回の Multiple Mini Interview (1000点)

- 5つの面接室のうち、最初の2つは提出書類(志願理由書)による質疑応答というオーソドックスなスタイル。後半の3つは状況課題によるスタイルで実施。
- 面接の評価者には、多職種連携の考え方も反映し、医学科(病院)教員のみならず、看護学科教員や入試や教務の職員も加わる。

1月 共通テスト(1000点)に↑面接点を加えて最終合否

- 共通テストの点数は、一般選抜の第1段階選抜合格者の平均点(例年85%くらい)以上との条件も。
- ✓ 2016年度に学年90名中の5名で導入後、当該選抜での入学後の成績が良いことから、その後募集人員を増やし、2023年度では90名中の19名に。
- ✓ 2019年度からは同じMMI面接を活用する、国際バカロレア特別選抜(2名)の導入に繋がる。

2023年度入試 選抜方法《学校推薦型選抜》

👉 募集人員・募集枠 (変更点下線)

★県内高校枠: 12名 (地域医療枠10 + 神奈川県指定診療科枠2)

★県外高校枠: 7名 (地域医療枠 6 + 神奈川県指定診療科枠1)

👉 出願資格・要件 (変更点下線)

➤2023年3月卒業見込みの者

➤全体の評定平均値が4.3以上で、学習成績概評が(A)

➤数学Ⅲ + 物理・化学・生物から2分野の履修

➤英語資格要件【TOEIC 600 相当以上】 ※2020.4以降受検の資格

👉 選考方法

第1次選考(11月中旬)	出願書類審査 (英語資格 <u>3.0</u> ~5.0 + 評定平均値4.3~5.0)
第2次選考(12月上旬)	面接審査 MMI方式 1000点
第3次選考(2月上旬)	共通テスト成績(5教科7科目) 1000点 + 面接点

特別公募推薦での募集枠の選択

👉 以下の2つのいずれかを選択

【**選択1**】神奈川県指定診療科枠を第1志望とし、
地域医療枠を第2志望とする。

【**選択2**】神奈川県指定診療科枠を志望せず、
地域医療枠のみを志望する。

→1校につき【**選択1**】の者1名、【**選択2**】の者1名の計2名まで推薦可

※ただし【**選択1**】を選ぶことができる者は、県内高校区分の者、または
県外高校区分で神奈川県内に1年以上の居住歴のある者に限定される

※受験者は選抜区分(県内高校・県外高校)ごとに評価され順位づけられる

※第1次選考と第2次選考では、【**選択1・2**】の別に関わらず合否を決定する

※第3次(最終)選考では、順位の上位の者から【**選択1・2**】の別に応じて
合格者を決定する

特別公募制学校推薦型選抜

1次:出願書類審査 → 県内区分約25名 県外区分約15名 合格

✓全体の評定平均値(4.3~5.0)

✓英語資格点(3.0~5.0) ※2023年度入試から最低基準を引き上げ

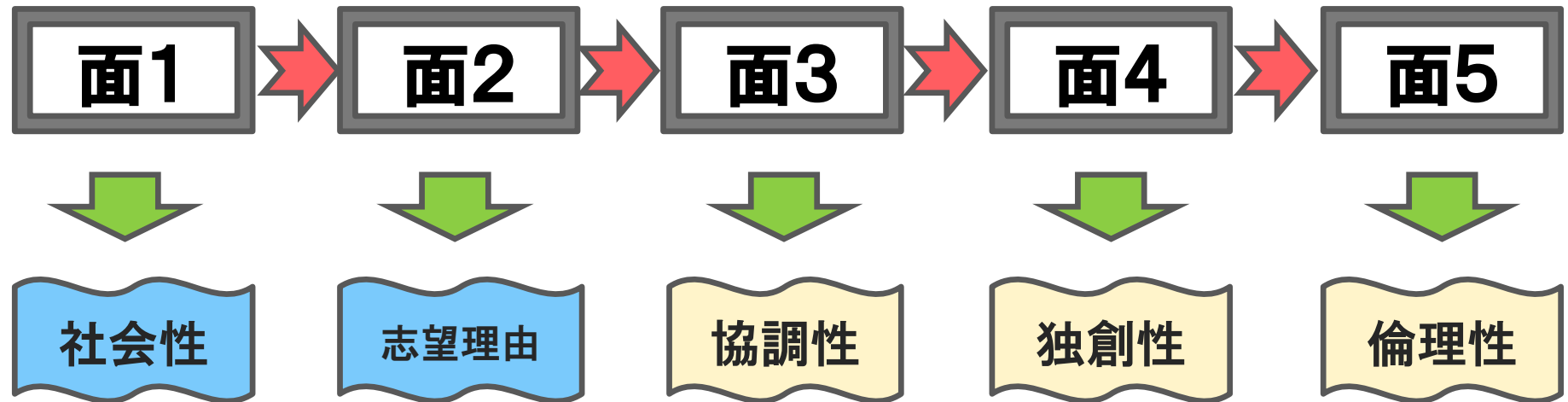
✓合計点(7.3~10.0)

得点	TOEFL-PBT (TOEFL-iBT)	TOEIC (L&R)	英検	GTEC (検定版・CBT)	IELTS (Academic Module)
5.0	607(90)	900	1級	1380	6.5
4.5	573(80)	800		1330	6.0
4.0	540(76)	700	準1級	1280	5.5
3.0	500(61)	600		1140	5.0
<u>TOEFL・TOEIC・GTECは中間点を0.1点刻みで評価</u>					
2.0	460(48)	500	2級	1000	4.5

推薦 & IB 2次面接審査 → 3次審査

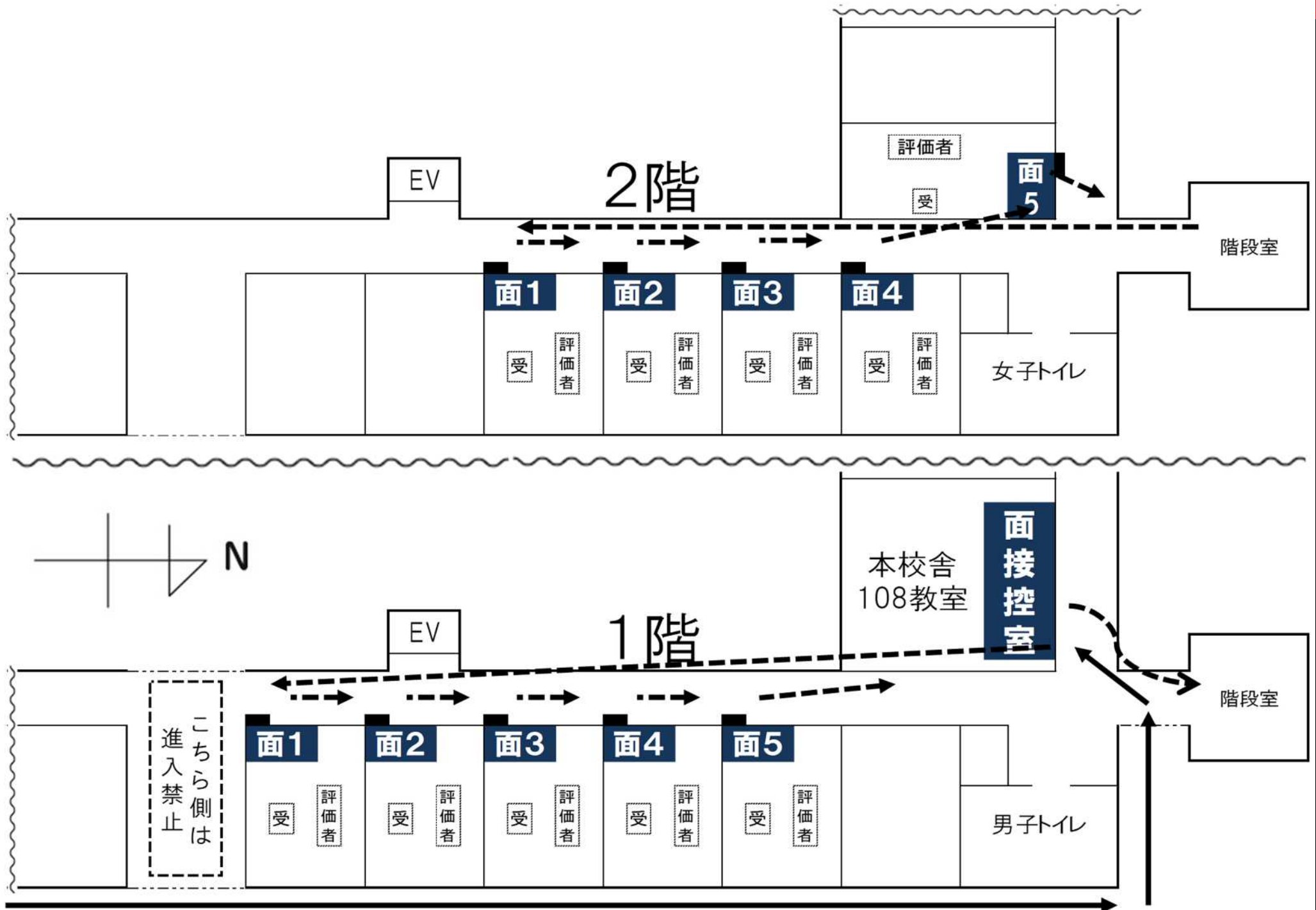
1次:出願書類審査 → 推薦県内約25名 推薦県外約15名+IB約6名 合格

2次:面接審査(MMI) 異なる観点のミニインタビュー(約10分)を5回:1,000点



【推薦】3次:共通テスト成績:1,000点 + 面接点1,000点 = 2,000点満点で評価
ただし 一般選抜の第1段階選抜合格者の共通テスト平均点
(2022年度は **814.42点**)を下回るときは不合格

【IB】3次:IBの科目要件を満たし、入学の意思を示した者の中から、
IBDPの最終成績45点×22 + 面接点1,000点 = 1,990点満点 で評価



1階（推薦-県内）					開始～終了	2階（推薦-県外、IB）				
面1	面2	面3	面4	面5		面1	面2	面3	面4	面5
80001					10:20~10:28	80501				
80002	80001				10:30~10:38	80502	80501			
80003	80002	80001			10:40~10:48	80503	80502	80501		
80004	80003	80002	80001		10:50~10:58	80504	80503	80502	80501	
80005	80004	80003	80002	80001	11:00~11:08	80505	80504	80503	80502	80501
	80005	80004	80003	80002	11:10~11:18		80505	80504	80503	80502
80006		80005	80004	80003	11:20~11:28	80506		80505	80504	80503
80007	80006		80005	80004	11:30~11:38	80507	80506		80505	80504
80008	80007	80006		80005	11:40~11:48	80508	80507	80506		80505
80009	80008	80007	80006		11:50~11:58	80509	80508	80507	80506	
80010	80009	80008	80007	80006	12:00~12:08	80510	80509	80508	80507	80506
	80010	80009	80008	80007	12:10~12:18		80510	80509	80508	80507
		80010	80009	80008	12:20~12:28			80510	80509	80508
			80010	80009	12:30~12:38				80510	80509
				80010	12:40~12:48					80510
80011					13:20~13:28	80511				
80012	80011				13:30~13:38	80512	80511			
80013	80012	80011			13:40~13:48	80513	80512	80511		
80014	80013	80012	80011		13:50~13:58	80514	80513	80512	80511	
80015	80014	80013	80012	80011	14:00~14:08	80515	80514	80513	80512	80511
	80015	80014	80013	80012	14:10~14:18		80515	80514	80513	80512
80016		80015	80014	80013	14:20~14:28	6601		80515	80514	80513
80017	80016		80015	80014	14:30~14:38	6602	6601		80515	80514
80018	80017	80016		80015	14:40~14:48	6603	6602	6601		80515
80019	80018	80017	80016		14:50~14:58	6604	6603	6602	6601	
80020	80019	80018	80017	80016	15:00~15:08	6605	6604	6603	6602	6601
	80020	80019	80018	80017	15:10~15:18		6605	6604	6603	6602
80021		80020	80019	80018	15:20~15:28	6606		6605	6604	6603
80022	80021		80020	80019	15:30~15:38	6607	6606		6605	6604
80023	80022	80021		80020	15:40~15:48	6608	6607	6606		6605
80024	80023	80022	80021		15:50~15:58	6609	6608	6607	6606	
80025	80024	80023	80022	80021	16:00~16:08		6609	6608	6607	6606
	80025	80024	80023	80022	16:10~16:18			6609	6608	6607
		80025	80024	80023	16:20~16:28				6609	6608
			80025	80024	16:30~16:38					6609
				80025	16:40~16:48					

面接の運用

- 受験者は時間割に従って各面接室に入室し、各8分程度の面接を受ける
- 1面接室には2名の評価者を配置。
- 多職種連携の観点から、評価者には、医学系教員のみならず、看護系教員、入試や教務の職員も加わる。
- 各面接室毎に、評価内容に応じた複数の評価項目を設定。各評価項目を5段階で採点し、項目毎の係数をかけ合わせて各部屋の得点（2名の評価者の平均）を算出。
- 5部屋の配点合計＝1,000点。各部屋の配点は非公表。

面接の評価の観点と内容等

観点	概要
社会性	<p>「志願理由書・項目1」の内容も合わせ、今までの活動経験から培ってきた社会性について評価します。</p> <p>＜記載内容＞ これまでにあなたが学業以外で取り組んできたこと(趣味・課外活動・社会活動等を含む)のうち、自身の成長に繋がったと思われることや他者(あなたの周囲)に貢献できたと思われることを、記入してください。(活動内容・期間等、具体的に記載してください)</p>
志望理由	<p>「志願理由書・項目2」の内容も合わせ、医療の直面する課題への問題関心や意欲など、医学を志す志望理由を評価します。</p> <p>＜記載内容＞ あなたが、医学を志望する理由を記入してください。また、医師または医学研究者として目指す目標についても記入してください。</p>
協調性	提示された状況課題(シナリオ)に対する解答により、協調性を評価します。
独創性	提示された状況課題(シナリオ)に対する解答により、独創性を評価します。
倫理性	提示された状況課題(シナリオ)に対する解答により、倫理性を評価します。

年度	概要
2016	部活の副キャプテンとして、対外試合が目前に迫った時点で発生した人間関係トラブルへの対応を問う課題。
2017	秋の団体戦を目前に控えた剣道部の主力選手として、集中力を欠き気味な後輩への指導を求められるとともに、自分自身の医学部受験との板挟みの状況での対応を問う課題。
2018	発展途上国の子供へのワクチン購入に資金寄付することを目的に、毎年学園祭で行っている飲食店の事業計画をめぐって、サークル内で意見対立が起きたことに対して、キャプテンとしての対応を問う課題。
2019	修学旅行先の歴史に関するレポートを作成するグループのリーダーとして、親友A、以前トラブルになったB、マイペースのCを含む4人のグループの統率方針を問う課題。
2020	ともに患者Aへの手術を希望しライバル関係にある医師B(手術技能高い)と医師C(患者Aの主治医・手術技能平均)の中から、総合病院の外科の責任者としてどのように執刀医を決めるかを問う課題。
2021	外来診察した患者が、処方された薬を飲みたくないと訴えている旨、薬局の薬剤師より電話があった状況での対応を問う課題。
2022	研修医全員が出席必須で毎週開催される「研修医向けセミナー」の出席者数が少なくなっている状態に対し、研修医の1人としてどのように問題を考え、何をするのかを問う課題。

年度	概要
2016	登山中に、山頂にほど近い地点で怪我をして動けなくなった高齢女性に遭遇し、日没までの時間が迫る中での対応を問う課題。
2017	地球外の生命体の考えられる形状を描き、その形状の理由を説明する課題。
2018	200年後の人の移動手段について、絵を描かせて説明させる課題。
2019	ある理系学部の出題者として、受験生の独創性を評価するユニークな試験問題(作業課題)と評価ポイントを考案する課題。
2020	人間の「感情」とはどのようなものか人体との関係を含めて図に描いて説明する課題。
2021	すべての病気が治る新しい治療法の開発を求められ、その提案内容を絵に描いて説明する課題。
2022	西日本に第二富士山をつくるプロジェクトチームのリーダーとして、1.意義、2.問題点、3.どこにどのように作るか、4.資金の調達、というポイントを念頭にアイデアを出す課題。

年度	概要
2016	在宅医として、認知障害の症状の現れてきた患者の診療方針を問う課題。
2017	骨折入院の際の検査で胃ガンが見つかったものの、ガン治療をいやがる患者への診療方針を問う課題。
2018	胸部大動脈瘤が見つかったものの、手術をいやがり帰宅を希望する高齢患者への診療方針を問う課題。
2019	幼なじみの親友が、高校の定期試験でカンニングペーパーを持ち込んでいるところを目撃し、その後の対応を問う課題。
2020	末期の慢性腎不全と診断されたものの血液透析を拒否している患者(52歳男性)とその家族(妻48歳、医学生の子22歳)との相談場面において、担当医師として何を確認・説明するかを問う課題。
2021	「悪いニュースも知りたい」と問診票に記入していた患者に大腸がんの転移が発見され余命約半年と診断したものの、患者の長女からは本人に告知せずに治療する事を求められた状況での対応を問う課題。
2022	1週間後に提出のせまった「基礎実験実習」のグループレポートの作成方法について、ネットで検索した論文のコピペ、過去の実験写真の流用、架空のグラフ作成、などを主張するメンバーへの、リーダーとしての対応を問う課題。

- 2005年の法人化以降、後期日程を廃止し、60名(当時)の入学定員全てを、一般選抜の前期日程で募集。
- 地域枠等の導入で募集人員が90名まで増える中、入学者の学力・モラルの低下や地域枠の不人気が課題に。
- 面接を重視した推薦入試を検討する中で、カナダや英国の医科大学が実施しているMMI(Multiple Mini Inetrview)に注目。
 - 国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」2013年10月26日東京大学
主催：科研費研究班(研究代表者 大滝 純司 北海道大学教授)
「わが国の医学部入試の妥当性と将来像に関する多面的国際共同研究」
- 英語資格、面接、センター試験の3要素の組み合わせを検討

	出願時の 英語資格	11~12月の 面接	1月中旬の センター試験	2月上旬の 面接
1案	高水準で求める	○	×	×
2案	求める	○	○	×
3案	求めない	×	○	○
4案	求めない	×	○	×

募集人員	学年計	一般選抜 (前期日程)			一般選抜 (後期日程)
		一般枠	地域枠	指定枠	
～2004年度	60	50			10
2005～2007年度	60	60			***
2008年度	80	一般枠	地域枠	指定枠	***
		60	20	***	
2009～2015年度	90	60	25	5	***

- 地域枠＝地域医療枠。恒常定員であるが、卒業生の県内定着措置がある。ただし修学資金の貸与は伴わない。
- 指定枠＝神奈川県指定診療科枠。期限を付した臨時定員であるが、2009年度の導入以来更新を継続している。県知事による診療科の指定と、修学資金の貸与が伴う。
- 一般選抜(前期日程)の募集において、志願者は3つの募集枠に対する志望順位(志望しないを含む)を明らかにして出願し、最終合否判定では、成績順により志望枠を割り当てて合格者を決定。
 - 地域医療枠は第2志望・第3志望での合格者が圧倒的多数。

募集人員	学年計	学校推薦型選抜				国際 バカロレア 特別選抜	一般選抜 24 (前期日程)			
		県内高校枠		県外高校枠			一般枠	一般枠	地域枠	指定枠
		地域枠	指定枠	地域枠	指定枠					
2015年度	90	***	***	***	***	***	60	25	5	
2016年度	90	5	***	***	***	***	60	20	5	
2017年度	90	5	***	***	***	***	60	20	5	
2018年度	90	5	***	***	***	***	60	20	5	
2019年度	90	8	***	***	***	2	58	17	5	
2020年度	90	7	2	4	1	2	58	14	2	
2021年度	90	10	2	5	1	2	58	10	2	
2022年度	90	10	2	5	1	2	58	10	2	
2023年度	90	10	2	6	1	2	58	9	2	

- 2016～2018年度の学校推薦型選抜は、横浜市立高等学校全校(9校)＋その他神奈川県内で本学医学部医学科に合格実績(2009年度入試以降)のある高等学校(37校→38校→41校)のみが対象で、1校につき1名のみ推薦可。 ※制度設計時に諸事あり
- 2020年度より、1校につき「選択1」1名＋「選択2」1名の2名まで推薦可。

2022年4月1日現在

導入の成果

25

入学年度	入試区分	募集人員	入学者数	標準年次 (卒業) 進級者数	標準年次 (卒業) 進級者率
2016	一般選抜	85	85	61	72%
	推薦(県内)	5	5	5	100%
2017	一般選抜	85	85	78	92%
	推薦(県内)	5	5	5	100%
2018	一般選抜	85	85	77	91%
	推薦(県内)	5	5	5	100%
2019	一般選抜	80	82	78	95%
	推薦(県内)	8	8	8	100%
	国際バカロレア	2	0	***	***
2020	一般選抜	74	74	71	96%
	推薦(県内)	9	9	8	89%
	推薦(県外)	5	5	5	100%
	国際バカロレア	2	2	2	100%
2021	一般選抜	70	69	67	97%
	推薦(県内)	12	12	12	100%
	推薦(県外)	6	6	6	100%
	国際バカロレア	2	3	3	100%

推薦入学者の生物選択傾向等

入学年度	学校推薦型選抜入学者					一般選抜入学者		
	センター/共テ 生物選択者		計	一般選抜との 併願者		センター/共テ 生物選択者		計
2016	2	40.0%	5	5	100.0%	22	25.9%	85
2017	4	80.0%	5	5	100.0%	14	16.5%	85
2018	0	0.0%	5	4	80.0%	25	29.4%	85
2019	3	37.5%	8	6	75.0%	24	29.3%	82
2020	6	42.9%	14	9	64.3%	17	23.0%	74
2021	8	44.4%	18	11	61.1%	12	17.4%	69
2022	6	37.5%	16	12	75.0%	16	22.9%	70

- カナダの医科大学(大学院レベルの課程)のMMIでは、10室程度のステーションを設け、OSCE的な内容なのに対して、日本の現役高校生向けの入試を意識してかなりアレンジ。
- MMIの評価が高い者は、基本的にセンター試験／共通テストの成績も高い傾向にあるが、MMIの評価が低く推薦型で不合格になるものの、一般選抜(共通テスト＋2次試験)での成績が抜群に良い者も時々いる。
- 一般選抜でも問題なく合格できるタイプもいるが、一般選抜とは違うタイプの入学者が一定数得られていると思われる。
- MMIへの短期的な対策は難しい。日常の思考態度や行動、経験の蓄積などが、総合的に試される。
- なぜ、推薦型選抜入学者の大学入学後の成績がよいのか？
→メカニズムはよくわからないが、MMIを重視したデザインの効果と言えるか？

McMaster University, MULTIPLE MINI-INTERVIEW (MMI)

[https://mdprogram.mcmaster.ca/md-program-admissions/how-we-select/multiple-mini-interview-\(mmi\)](https://mdprogram.mcmaster.ca/md-program-admissions/how-we-select/multiple-mini-interview-(mmi))

2002年にMMIを導入。

岸 太一 (2015) 「MMI面接課題に対する面接者の評価」、
『第47回日本医学教育学会大会予稿集』

https://www.jstage.jst.go.jp/article/mededjapan/46/Supplement/46_1/_pdf

東邦大学で2013年度にMMIを導入し、2015年度の面接者に調査を実施。

東京慈恵会医科大学(2016/11/10)「医学科入学試験(二次試験)について」

http://www.jikei.ac.jp/univ/igaku/pdf/h_28nijisiken.pdf

2017年度入試より面接にMMIを導入。

藤田医科大学(2017/5/6のアーカイブ)「平成29年度(2017年度)面接の変更点」

<https://web.archive.org/web/20170506143738/http://www.fujita-hu.ac.jp:80/admission/examination/medicine/index.html>

2017年度入試より面接にMMIを導入。

福島県立医科大学(2020/6/6のアーカイブ)

「令和4年度 医学部(医学科)入学者選抜における変更点について(予告)」

<https://web.archive.org/web/20200606000403/https://www.fmu.ac.jp/univ/nyugaku/pdf/r4-igakuyokoku.pdf>

横浜市立大学の事例を参考にして(2019年5月に本学関係者が講演)、
2022年度よりMMIを用いた総合型選抜を導入。